いにしえの瑞穂

水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報

1995年3月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は第３次総合振興計画の中で『ゴルフ・アンド・カルチャービレッジの開発』を掲げ，ゴルフ場の建設を推進して参りました。工事に先立って埋蔵文化財の分布調査を実施しましたところ，建設予定地内に遺跡が存在することが判明し，平成２年12月より平成６年５月まで発掘調査を実施いたしました。

本書はその概要をまとめたものです。この小冊子が地域における歴史の解明に少しでも役立てば幸いです。

なお，調査にあたりご多忙の中終始ご指導いただきました広島大学文学部河瀬正利先生，島根県教育委員会文化課をはじめ，積極的にご支援いただきました株式会社瑞穂トーアリゾート磯部昌正氏ならびに職員の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成７年３月

瑞穂町教育委員会
教育長　澤　田　隆　之

いにしえの瑞穂

水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報

目　　次

序

Ⅰ．調査に至る経緯……1頁

Ⅱ．位置と環境……2頁

Ⅲ．調査の概要……3頁

1．野田西遺跡……3頁

2．大金谷遺跡……7頁

3．野田遺跡……8頁

4．道城遺跡……9頁

5．牛塚古墳群……9頁

6．牛塚原遺跡……10頁

Ⅳ．まとめ……11頁

例　　言

1．本書は島根県邑智郡瑞穂町大字上亀谷朝原地内（かみかめだにあさはら）におけるゴルフ場（水明（すいめい）カントリークラブ）建設工事にともない，平成２年12月15日から平成６年５月31日にわたって実施した発掘調査概報です。

2．発掘調査は株式会社瑞穂トーアリゾートの委託を受け，瑞穂町教育委員会が実施しました。

3．本概報の執筆編集は河瀬正利氏の指導で森岡弘典が行いました。

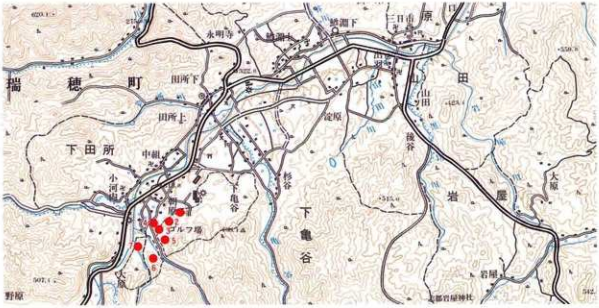
4．本書掲載の図面作成は森岡弘典，藤田睦弘，上木和枝，市山真由美が行いました。

5．本書掲載の写真撮影は森岡弘典，藤田睦弘，古川健二が行いました。

6．本書掲載の測量図の矢印は磁北を示しています。

7．出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管しています。

（表紙題字　瑞穂町長　洲濱哲夫
表紙写真　野田西遺跡）



遺跡位置図（①野田遺跡　②野田西遺跡　③牛塚原遺跡　④牛塚１号墳　⑤牛塚２．３号墳　⑥大金谷遺跡　⑦道城遺跡）

瑞穂町位置図

瑞穂町域と遺跡位置

Ⅰ．調査に至る経緯

瑞穂町は『豊かで住みよい活力のある町づくり』をめざして策定した第３次総合振興計画の中で，「ゴルフ・アンド・カルチャービレッジ」の構想を立て，ゴルフ場の誘致を行ってきました。そして，平成元年６月東京に本社のある株式会社瑞穂トーアリゾートにより，瑞穂町大字上亀谷朝原地内にゴルフ場開発の計画が具体化しました。平成元年９月瑞穂トーアリゾートより計画予定地内の埋蔵文化財の有無について協議がありました。計画予定地内には周知遺跡の牛塚遺跡や牛塚古墳群等が所在していましたが，これら以外にもまだ発見されていない遺跡があることが予想されましたので，広島大学文学部河瀬正利先生の指導のもと，瑞穂文化研究会の協力を得て，平成２年８月から９月にかけて表面観察を中心に分布調査を実施しました。調査の結果，計画区域のほとんどが近世以降の砂鉄採取（鉄穴流し法）により，地形が大きく改変されており，遺跡の存在が予想される場所はある程度限定されることがわかりました。その結果に基づいて，平成２年12月から随時試掘調査を実施し，今回概報で紹介する野田西遺跡，大倉谷遺跡，道城遺跡が発見され，平成４年４月から平成６年５月にわたり発掘調査を行いました。調査体制は次のとおりです。

調　査　員	森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）
調査補助員	藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主任主事）
調査指導	河瀬正利（広島大学文学部助教授）
	吉川　正（島根県文化財保護指導委員）
	川原和人（島根県文化課主幹）
	内田律雄（島根県埋蔵文化財センター係長）
	西尾克己（島根県埋蔵文化財センター係長）
	熱田貴保（島根県文化課主事）
事　務　局	澤田隆之（瑞穂町教育委員会教育長）
	山本忠徳（瑞穂町教育委員会教育課長）
	星野暢子（瑞穂町教育委員会課長補佐）
整理作業	石橋貴美子，市山真由美，上木和枝，小笠原佳子，高梨多恵子，新林尚美
調査作業	飯石サツミ，井坂禎子，石川義明，伊藤カズエ，井上コイナ，岩根諭，上田民子，上田芳子，上出定子，上田房人，上出弥生，槙田義雄，上川義夫，漆谷勉，大畑清見，大畑義美，尾糠文江，木時コスギ，国信勇之進，小糠米太郎，品川コミツ，品川隆義，洲浜覃太郎，洲浜カツノ，高川秀夫，高橋一男，田中繁人，田中三二，土佐トシミ，上佐常子，戸津川孝夫，戸津川里美，富永ナカヨ，久光花枝，日高シズヨ，日高シナヨ，日高フミエ，日高スエノ，日野マスミ，平川正寅，古川健二，松江八重美，松島利郎，丸山ハルミ，三上カメノ，三上貢，三上覚，三上福三，湊寿美衛，森田ユキエ，森近アヤメ，森近吉江，山崎フジヨ，吉永久子
調査協力	白石修，大谷功治，渡邊睦郎，来栖元美，内野隆啓（以上トーア工業株式会社），瑞穂町文化財保護審議会，瑞穂文化研究会，振井久之（大和村教育委員会）

II. 位 置 と 環 境

島根県邑智郡瑞穂町は，島根県のほぼ中央の邑智郡の南部に位置します。南西には標高600～1000mの中国山地が連なり，山地を境として広島県に接しています。町のほぼ中央を出羽川が東に向かって流れ，その流域には河岸段丘が形成され，段丘上には多くの遺跡が点在しています。今回調査した遺跡は，瑞穂町役場から広島方面へ約3.5km行った瑞穂町大字上亀谷朝原集落南側の段丘上や集落に近接する小さな谷あいの出入口付近にあります。これらの遺跡の周辺には順庵原遺跡や出張遺跡など多くの遺跡があります。

瑞穂町内の遺跡は，現在約550か所以上確認されています。多くは中世から近世のたたら製鉄に関する遺跡ですが，時期的には旧石器時代から歴史時代に至る遺跡も数多くあります。

旧石器時代では横道遺跡や堀田上遺跡などがあげられます。縄文時代の遺跡では前述の遺跡の外に，川ノ免遺跡や郷路橋遺跡など町内各地で相当数の遺跡が明らかになりつつあります。

弥生時代になると長尾原遺跡や順庵原遺跡，牛塚原遺跡をはじめ，今回調査した野田西遺跡など遺跡の数が増えてきます。また，順庵原遺跡に隣接して，四隅突出型墳丘墓のわが国最初の発見となった順庵原１号墓が築かれています。古墳時代になると遺跡はさらに増え，今佐屋山遺跡や川ノ免遺跡など町内各地に多くの遺跡があります。さらに，古墳時代末から奈良，平安時代にかけては須恵器の窯跡が多く確認されており，島根県でも有数の須恵器の生産地として注目されています。このほか中世の砦や山城跡や中世から近世に至る製鉄遺跡が300か所以上確認されており，製鉄が盛んに行われていたことがうかがえます。

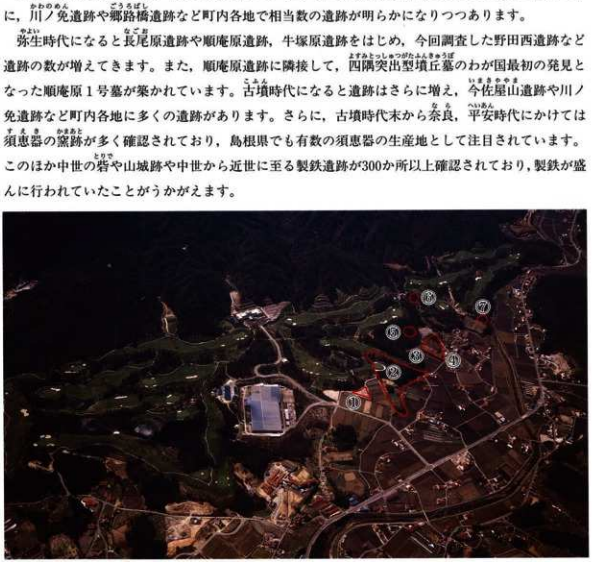


写真１．ゴルフ場内の遺跡位置（写真提供：水明カントリークラブ）

①野田遺跡　②野田西遺跡　③牛塚原遺跡　④牛塚1号墳　⑤牛塚2,3号墳　⑥大金谷遺跡　⑦道城遺跡

Ⅲ. 調 査 の 概 要

ゴルフ場建設工事に先立って野田西遺跡，大金谷遺跡，道城遺跡，野田遺跡，牛塚古墳群，牛塚原遺跡の調査を実施しました。以下は調査の概要です。

1．野田西遺跡

野田西遺跡は朝原集落南の微丘陵上にあります。発掘調査により縄文土器や弥生土器，須恵器，土師器（はじき）などの遺物や弥生時代，奈良時代の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）跡や掘立柱建物（ほったてばしら），江戸時代の墓などが発見されました。

縄文時代

縄文時代は，今から約12,000～2,300年前までの，およそ1万年続いた時代をさします。この時代は漁猟や，植物採取など，自然の恵みに食糧の獲得を依存していた時代です。だれもが力を合わせ助け合って自然と一体となって生活をし，戦争などは無い平和な時代でした。縄文人は自然を理解し，自然とともに生きた心豊かな人々といえるでしょう。

写真２．縄文時代早期の土器

野田西遺跡でも縄文時代早期（約8,000年前）の終わりごろの土器等が出土しており，遅くとも縄文時代早期ごろには野田西遺跡周辺で人々が生活しはじめたことがわかりました。

弥生時代

弥生時代は約2,300年前から巨大な古墳がつくられはじめる1,700年前までの約600年間をいいます。弥生時代になると狩猟や植物採取の生活から，米づくりを中心とする農耕社会へと変わっていきます。弥生時代の終わりごろになると農耕社会の進展とともに階層の分化が始まり，その結果，順庵原１号墓（10×8ｍの規模の四隅突出型墳丘墓）のようなこの地域を治めていた首長墓がつくられるようになります。また「魏志倭人伝（ぎしわじんでん）」に登場する耶馬台国（やまたいこく）の卑弥呼（ひみこ）が活躍する時代でもあります。今回の発掘調査でも弥生時代後期の竪穴住居跡が12棟発見されました。

竪穴住居は地面を直接掘り下げて，その底面を平らに整えて床としています。また床面にはいく

写真３．弥生土器

写真４．弥生時代の石器

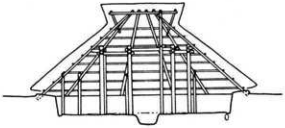


写真５．弥生時代の円形住居

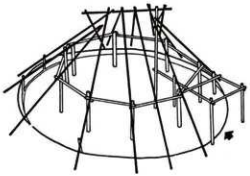


図１．弥生時代の竪穴住居復元図（例）

写真６．火災にあった住居

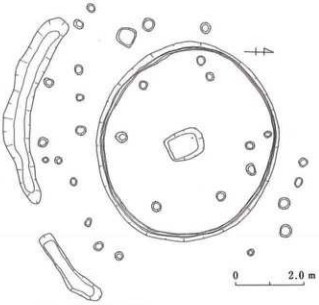


図２．竪穴住居実測図

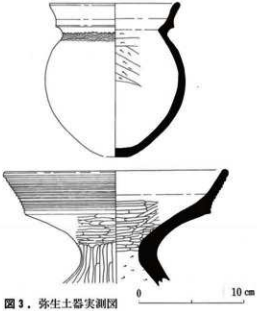


図３．弥生土器実測図

つかの柱穴を掘り，木の柱を立て，横木（棟木）を渡して屋根を葺いた建物です。

竪穴住居の床面は円形や角が丸みを帯びた隅丸方形の形をしています。円形の住居の周りには溝が掘られていました。それらの中には火災にあった建物もあり，柱や骨組み材が炭化して建物の中央に向けて放射状に崩れ落ちていました。この炭化物を鑑定したところ栗の木を材料に使っていたことがわかりました。

奈良時代（約1,200～1,300年前）

奈良時代は，「律令」という法律が定められ，国としての体制が整備されはじめた時代です。奈良の都「平城京」は唐（中国）の長安（西安）を手本につくられた大都市で，役所の建物や貴族の住宅は，瓦葺きの屋根や朱塗りの柱の大陸風の建物もありました。この都は政治文化の中心として10万人の人々が住んでいたといわれます。

ところで，当時の瑞穂はどのような村で，人々はどのような生活をしていたのでしょうか。当時の記録は残っていませんが，野田西遺跡の調査で少しずつですが当時の様子がわかってきました。

写真７．奈良時代の竪穴住居

調査によって，奈良時代ごろと推定される竪穴住居18棟が発見されました。竪穴住居は基本的には弥生時代などの住居と同じ半地下式ですが，住居の形は方形に変化し，住居の壁際に石や粘土を使ってカマドをつくり，その後側には地面を掘ってつくられた煙を出す煙道（煙突の原形）がつくられています。このようなカマドを「つくり付けのカマド」といいます。野田西遺跡では大きく分けて３通りのつくり方がありました。

写真（８）は地面を掘り込んでつくられています。本来は煙道上側に粘土を張っていたと思われます。写真（９）は煙道の横壁に石を並べて上側に粘土を張って管状につくっていたと思われます。写真（10）は住居の壁をトンネル状に掘り抜いて煙道をつくっています。一方，「つくり付けのカマド」のない住居跡も発見されていますが，これらは持ち運びの出来る移動式のカマドを使用していたと思われます。山陰側の海岸部からは，この「つくり付けのカマド」の発見例はあまりありませんが，中国山地や山陽側では多く発見されています。瑞穂町でも野田西遺跡の他に，長尾原遺跡（下亀谷），川ノ免遺跡（山田），

写真８．地面を掘り込み上部に粘土を張ったと思われる煙道

写真９．横壁に石を並べた煙道

写真10．トンネル状に土をくり抜いた煙道

今佐屋山遺跡（市木）などで発見されていますし，近隣では大和村の郷上遺跡，川本町のキタバタケ遺跡等でもつくり付けのカマドのある住居跡が発見されています。このことは，この地方が古代より山陽側との交流が密接であったことを示しています。

住居内からの出土遺物は，土師器の甕や須恵器の杯や蓋などですが，これらの中には，杯の底の部分（高台）を硯として使用（転用硯）したものがありました。このことは野田西遺跡に住んでいた人々の中に文字が書ける人がいたことを示しています。当時文字の書ける人は役人など一部の人々に限られていましたから，役所などに関係ある人が使ったものだと思われます。

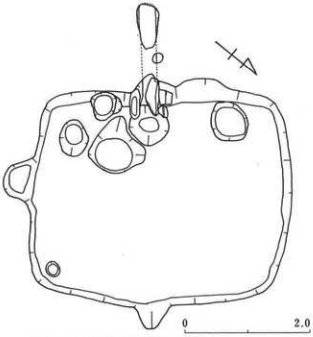


図4．奈良時代の竪穴住居実測図

また，奈良時代ごろと推定される掘立柱建物が6棟発見されています。掘立柱建物は基礎を用いずに地中に直接柱を立て草や藁，板などで屋根を葺いた建物です。竪穴住居と同じく縄文時代ごろよりつくられますが，7世紀～9世紀にかけては多くつくられるようになります。野田西遺跡で発見された掘立柱建物は，柱跡から桁行1～2間，梁行2～3間のあまり大きくない建物だったと推定されます。また，平安時代ごろの須恵器も出土していますので，平安時代の前半まではこの一帯で人々が生活していたのでしょう。

写真11．奈良時代の須恵器

このほか，中世のものと推定される墓も見つかりました。大きさは長さ約1.8m，幅約1.1m，深さ0.5mで，墓の上には大小約100個の石が積まれており，墓のしるしにしていたと思われます。墓の中から長さ約22cmの刀子（小刀のようなもの）が出土し，埋葬者とともに埋められた

写真12．奈良時代の土師器

写真13．杯の底を利用した硯（転用硯）

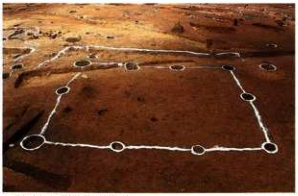


写真14．掘立柱建物跡

図5．掘立柱建物復元図（例）①

写真15．中世の墓

写真16．墓の中から出土した刀子

ものだと思われます。

野田西遺跡の第1調査区は調査後残念ながら工事により無くなりましたが，第2調査区は住居跡などを良質な土で覆い，その上に盛り土してコースがつくられ，貴重な遺跡が保存されることになりました。

註　①島根県教育委員会『遺跡が語る古代の歴史』1993年3月より。

2．大金谷遺跡

瑞穂町をはじめとして中国山地一帯では古来より「たたら製鉄」と呼ばれる製鉄がさかんで全国の鉄生産量の90％以上を生産し，各地に供給していました。製鉄の原料は『鉄穴流し』という方法で採取した砂鉄と大量の木炭です。『たたら製鉄』は，まず，高殿炉で3～4昼夜連続の重労働で砂鉄と木炭を交互に炉内へ挿入し 鉄 （鍑や銑）をつくります。約13トンの砂鉄と13トンの炭からできる銑はわずか約2トンです。銑は炭素や不純物が多くそのままでは鉄として利用できないので大鍛冶場で再度熱を加え鍛えて炭素量を減らすことによって錬鉄をつくります。この錬鉄の形が包丁に似ていることから「包丁鉄」と呼ばれ全国各地に出荷されました。大金谷遺跡はこの錬鉄をつくっていた大鍛冶場の跡です。遺跡は朝原集落山手側の大金谷川左岸にあります。遺跡の発掘によって鉄滓（鍛冶滓）や羽口（炉内の温度を上げ

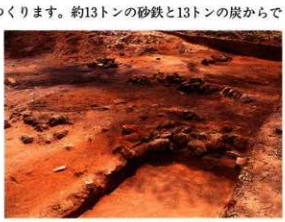


写真17．鉄滓などが出土した大金谷遺跡

図6．『先大津阿川村山砂鉄洗取之図』の大鍛冶場画②

写真18．出土した羽口と鉄滓

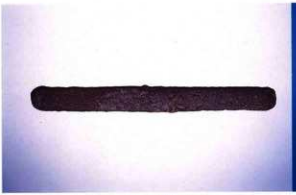


写真19．大鍛冶場でつくられた包丁鉄

写真20．出土した近世の陶磁器

る送風器の先端部分），大鍛冶職人達が使用していたと思われる陶磁器片が数多く出土しましたが，鍛冶炉は発見できませんでした。おそらく調査区外の北側にあると思われます。出土した遺物から大鍛冶場が使用されていた時期は18世紀後半から19世紀にかけてと推定されます。また調査区西側斜面で砂鉄を含んだ土砂を流した鉄穴溝も見つかりましたが，鉄穴溝の土砂が大鍛冶場を覆うように堆積していたので，大鍛冶場が使用されていた時期より新しい時代のもの（19世紀以降）と思われます。

写真21．弥生時代，奈良時代の竪穴住居

製鉄に関係する遺跡以外に西側斜面で，弥生時代中期初頭（約2200年前）の竪穴住居と奈良時代の竪穴住居がそれぞれ1棟ずつ見つかりました。弥生時代の住居跡は不定形な円形で直径は推定約2.9mです。また，奈良時代の住居跡（約1200～1300年前）は一辺が約2.6mの方形の住居跡です。この方形の住居跡には石でつくったつくり付けのカマドと地山をトンネル状に掘った煙道（煙突の原形）も見つかりました。

註　②広島県立歴史民俗資料館『中国山地のたたら製鉄』1992年より。

3．野田遺跡

野田西遺跡の東側の丘陵尾根の先端にあります。ゴルフ場の建設にともない朝原集落の共同墓地の移転予定地となりました。

調査の結果，直径1.3m，深さ0.2mの円形の人工の掘り込み跡3基を発見しました。掘り込みの中には炭混じりの黒色土がつまっていましたが，側壁などは火を受けた痕跡がなく性格などは不明です。この他には当時の人々が生活した跡などはまったく発見できませんでした。

遺物は，安山岩の剥片1点のほか，弥生土器，土師器，須恵器が少量出土しました。この他に寛永通宝（江戸時代の青銅銭）1枚が出土しました。このあたりには『堂々』という字名が残っていますので当時お堂などがあったのかもしれません。

写真22．野田遺跡遠景

写真23．道城遺跡出土縄文時代後期の土器

写真24．道城遺跡出土石器類

4．道城遺跡

小金谷川と出羽川が合流する地点の段丘上にあります。発掘調査により柱穴と思われる落ち込みが発見されましたが，時代や性格については不明です。このほかには人々の生活した跡などはまったく発見されませんでしたが，石鏃などの石器や縄文土器(後期)，弥生土器，須恵器などが出土していますので，調査区の西側部分(調査区外)に住居跡などが存在しているのかもしれません。

5．牛塚古墳群

牛塚古墳群は，大金谷川が流れる谷の出入口の朝原地区大歳神社付近の段丘上とその背後の丘陵上にあり，野田西遺跡の西側に位置します。ゴルフ場の敷地内にありますが，現状保存されることになりました。

古墳とは，土を高く盛った古代の墓を意味する言葉ですが，一般的には弥生時代につづく3世紀末から7世紀にかけて，全国で盛んにつくられた墳墓をさし，この時代を古墳時代と呼んでいます。また，古墳の形は，この盛り土の外形から，前方後円墳，円墳，方墳などに分けられます。

さて，牛塚古墳群は3基の円墳で構成されており，古墳がつくられた時期は古墳時代の終わりごろの6世紀末から7世紀の初めごろだと思われます。

1号墳は通称「牛塚原」と呼ばれる段丘の北側先端部にあります。直径約10mの円墳で，埋葬施設は横穴式石室で大きさは長さ約7.5m，幅約1.4m，高さ約1.6mで中央部が少しふくらんだ胴張形の平面形につくられています。

2号墳は1号墳の南側の丘陵頂上付近にあります。2号墳も1号墳と同様円墳と思われますが，

写真25. 牛塚１号古墳石室内部

近世の鉄穴流しや，一部の石材が建築用石材として持ち去られているので大きさは不明です。

３号墳は２号墳の北側に隣接してあります。２号墳と同じように鉄穴流しで盛り土が削られていますが，墳丘の直径は約13ｍくらいと推定されます。石室内には大量の土が流入しているので詳しいことは分かりませんが，現存の長さ約6.4ｍ，幅約1.2ｍ，高さ約1.3ｍで，１号墳と同様に中央部が少しふくらんだ胴張形の横穴式石室で，石材は１号墳より大きいものを使用しています。

いずれにしても，これらの古墳をつくった古代の人々の積み石の技術やこれらの大石をほかの場所から運搬してきたパワーには驚かされます。

６．牛塚原遺跡

以前から弥生土器や土師器，須恵器が採取され，牛塚原遺跡として知られていました。現況は栗園でしたが，野田遺跡と同じようにゴルフ場の建設にともない朝原地区の墓地移転予定地となったため，事前に遺跡の範囲の確認調査を実施しました。調査の結果，縄文時代早期の押型文土器や弥生土器，土師器，須恵器が出土したほか，つくり付けのカマドのある住居跡も確認され，集落跡があることが推定されました。関係者で協議した結果，計画を変更し現状保存することになりました。

写真26. 保存されることになった牛塚原遺跡遠景

Ⅳ. ま　と　め

ゴルフ場の建設にともなって実施した発掘調査は，平成２年８月の埋蔵文化財分布調査に始まり平成６年５月終了まで３年10か月の長い期間を要しました。調査の結果，現状保存された遺跡，調査後埋め戻して保存された遺跡もありますが，やむをえず消滅した遺跡もあります。これらの遺跡の詳細については後日，本報告書を作成する予定ですが，調査の結果から古い時代の朝原地区周辺の様子や人々のくらしぶりが少しずつわかってきました。

今から約8,000年前の縄文時代早期の終わりころには，みんなで助け合い狩猟や植物採取など，自然と一体となってたくましく生活していた人々がこの近辺に住んでいました。しかし，縄文時代前期から後期にかけては人々の営みを示す痕跡はありません。彼らはどこへ行ったのでしょうか。

写真27. 野田西遺跡住居跡

写真28. 道城遺跡発掘調査風景

写真29. 野田西遺跡弥生土器出土状況

写真30. 大金谷遺跡　鉄穴溝

図7. 製鉄炉（たたら吹き製鉄）③

そして縄文時代後期（約4,000年前）になると再び朝原地区小金谷の道城遺跡付近で人々が住みはじめたと思われます。弥生時代になると稲作により食糧が安定的に得られるようになり，人口も増えてきました。特に弥生時代後期になると，野田西遺跡あたりの集落を中心に急激に人口が増えたようです。このことは出土した土器など遺物の多さからも推定できます。しかし，古墳時代になるとなぜか集落がなくなり，人々も住まなくなりますが，古墳時代の終わりごろになると，牛塚古墳のような古墳が町内各地につくられますので，古墳時代の集落は野田西遺跡周辺とは別なところにあったのでしょう。

奈良時代になると，再び野田西遺跡のある丘陵に集落がつくられたようです。そして，平安時代前半を過ぎるころになると集落は消滅してしまいます。このごろには現在の朝原集落のような低地に集落が形成されはじめたと推測されます。その後，江戸時代には，良質の砂鉄を採取するために，朝原地区南側の丘陵部では盛んに鉄穴流しがおこなわれ，それらの砂鉄を使って，大金谷では「たたら」と呼ばれる製鉄場で「たたら吹き製鉄」（大金谷鈩跡など）による鉄づくりが行われました。製鉄場でつくられた鉄は「大鍛冶場」（大金谷遺跡，伽藍（がらん）大鍛冶場跡）で加工されたのち，各地へ出荷していました（製品はその形から包丁鉄，割鉄（わりてつ）などと呼ばれていました）。しかし，盛んに行われた日本古来の製鉄も，明治時代になり西洋の製鉄技術が導入されると急激にすたれていきました。瑞穂町内の山々や谷に入ると必ずといっていいほど鉄穴流しの跡や，製鉄場のあとを見つけることができます。このことは，江戸時代ごろの瑞穂町を含む中国山地一帯が，日本の主要な製鉄コンビナートを形づくっていたことをしめしています。

今回の発掘調査によって多くの住居跡や遺物が発見され，この地方の人々のくらしが少しずつわかってきました。現在の私たちのくらしは，このような過去の人々が築き上げてきた歴史の上に成り立っています。歴史をみつめ，さまざまな時代を力強く生きた人々の営みを知ることは，私たちの今をみつめ，明日の生活や社会をより良いものへ発展させる大きな力となるものと思います。瑞穂町誌の巻頭に「郷土の発展は郷土を愛する心に期待でき，郷土を愛することは郷土を知ることに始まる。郷土を知るには，郷土の現状，その歴史を理解することが大切である。」とあります。今後も遺跡から古代の人々の生活の知恵や，力強く生きた姿を学び明日からの私たちの生活や社会に役立てていきたいものです。

註　③潮見浩『技術の考古学』有斐閣1988年より。

歴史略年表

時代			主なできごと	増穂町の主要な遺跡
300万年前	旧石器時代	狩猟・採集	(人類の誕生)　氷河時代	
			打製石器	
			ナイフ形石器文化の成立、局部磨製石器の使用	
2万年前			鹿児島姶良カルデラ爆発	横道遺跡（高見段の原）
			ナイフ形石器文化の地域色顕著	
			細石刃文化の成立	荒植遺跡（岩堀）
10,000前			氷河の後退・海進	
	縄文時代	狩猟・採集・漁撈	磨製石器、弓矢、土器の使用	横道遺跡
6,000前			竪穴住居が一般的となる	堀田上遺跡（市木）川ノ免遺跡（山田）
			漁撈の活発化，海進の頂点	**野田西遺跡**（朝原）
			鹿児島喜界カルデラ爆発	
			各地に大貝塚ができる	
				郷路橋遺跡（市木）
			屈葬・土偶の増加	**道城遺跡**（朝原）
			縄文社会のゆきづまり（西日本）	
300				
B.C.	弥生時代	農耕	稲作の開始（西日本）	順庵原遺跡（ド亀谷）
			鉄・青銅器の使用	**牛塚原遺跡**（朝原）
			稲作東日本へひろまる	長尾原遺跡（下亀谷）
A.D.			鉄器の普及	川ノ免遺跡
			稲作技術の発展と耕地の拡大	順庵原1号墓（ド亀谷）
300			階級の分化がすすむ	**野田西遺跡・野田遺跡**（朝原）
	古墳時代		古墳の出現	
			古墳が全国にひろまる，須恵器の製作	
500			技術が朝鮮半島より伝来	
			古墳の巨大化	
			群集墳の盛行，仏教の伝来	鏑澗古墳群（鏑澗）
			寺院の建立，古墳の衰退・消滅	杉谷古墳群（下亀谷）
600			中国式都城造営の開始（藤原京）	牛塚古墳群　今佐犀山製鉄遺跡
710	歴史時代 奈良時代		平城京遷都	野田西遺跡
			全国に国分寺・国分尼寺の建立	長尾原遺跡
794	平安時代		平安京遷都	久永古窯跡群（須恵器窯跡）
			荘園制の展開，武士団の発生	（淀原、鏑澗、上側）
1192	鎌倉時代		鎌倉幕府の成立	
			元寇の役，各地に山城ができる	二ツ山城跡（鏑澗）
1334	南北朝		建武の中興	
1392	室町時代		室町幕府成立，各地に山城ができる	桜尾城跡（市木）　本城跡（下田所）
			豊臣秀吉の全国統一，関ヶ原の戦い	
1600	江戸時代		江戸幕府の成立，鎖国	大金谷遺跡（朝原）

（**ゴシック**は今回調査したもの）

報告書抄録

ふりがな	みずほ
書名	いにしえの瑞穂
副書名	水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	森岡弘典
編集機関	瑞穂町教育委員会
所在地	〒696-03 島根県邑智郡瑞穂町大字三日市32番地 TEL 0855-83-1121㈹
発行年月日	西暦 1995年3月

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
野田西遺跡	島根県邑智郡瑞穂町 大字上亀谷1970 2022	32445		34°50′13″	132°30′52″	19920801～19940531	6332	ゴルフ場建設
大金谷遺跡	〃 1584-1 1584-2	〃		34°50′01″	132°30′43″	19920518～19920731	455	〃
野田遺跡	〃 1972 2030-1	〃		34°50′19″	132°30′55″	19901215～19910210	92	〃
道城遺跡	〃 1293-1	〃		34°50′03″	132°30′36″	19930701～19930820	372	〃
牛塚古墳群	〃 1971-1	〃		34°50′08″	132°30′49″	19940324～19940325	200	〃
牛塚原遺跡	〃 1971-1 1971-2	〃		〃	〃	19901215～19910210	80	〃

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野田西遺跡	集落跡	弥生，奈良	竪穴住居 掘建柱建物跡	弥生土器，土師器 須恵器	縄文から近世の複合遺跡 縄文の遺構はなし
大金谷遺跡	製鉄遺跡 住居跡	近世 弥生，奈良	鉄穴溝，炭窯 竪穴住居2棟	陶磁器，羽口，鉄滓 弥生土器，須恵器	鍛冶炉は確認できず
野田遺跡	散布地	弥生		弥生土器	遺構なし
道城遺跡	散布地	縄文，弥生 奈良		石鏃，弥生土器 須恵器	縄文から奈良，平安にかけての複合遺跡
牛塚古墳群	古墳	古墳時代	横穴式石室3基		現状保存，地形測量のみ
牛塚原遺跡	集落跡	弥生，奈良	竪穴住居跡	弥生土器，上師器 須恵器	トレンチ調査で遺跡の範囲を確認し現状保存

平成７年（1995）３月10日

島根県邑智郡瑞穂町

いにしえの瑞穂

水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報

編集・発行　島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印　　刷　柏村印刷株式会社